

Kijo Murakami and His Haiga, (Kokubungaku, Vol. 50, Issue 9.) By Mikiya Murakami

(Haiga: a watercolor or ink painting, in an abbreviated and detached style, that is often accompanied by a haiku)

[Excerpt of the article]

On May 27<sup>th</sup>, five students and five members of the faculty and staff of the National Technical Institute for the Deaf at Rochester Institute of Technology visited the Murakami Kijo Memorial Museum to learn more about Kijo Murakami. Their renditions of Kijo Murakami's life and poems in American Sign Language were excellent. Each performer very ably produced Kijo's haiga ("gold fish") after participating in a workshop. On July 2<sup>nd</sup>, Kyoko Tsuruta, who is a researcher and scholar of English Literature, recorded their visit and performance and presented these at the Aichi Expo.

# 國文學

解釈と教材の研究

昭和31年9月25日 第3種郵便物認可 平成17年9月10日発行(毎月1回10日発行)第50巻第9号9月号

## 俳句 世界の HAIKU

——ことばを折りたたむ／響きと新しみ

狂言「古池蛙」……長谷川 權

ペルー移民と俳句——創る俳句と想う俳句

川上弘美「光ってみえるもの、あれは」

俳句と俳諧——「猿蓑」句の解釈をめぐる

「世界俳句」の次の段階へ

俳句、東と西のあいだで——相互交通の可能性

考えをほどくわざ——俳句創作ワークショップ



セルビアにおける前衛詩運動と日本の詩歌

小津の俳句

富澤赤黄男——こことむこう

芝不器男論——ミニマルなもの力

漢俳の動き——2005年3月北京にて

台湾の俳句——その周辺ほか 黄 靈 芝

ドイツの俳句——ドイツ語圏の俳句受容

一茶、芭蕉、蕪村の英訳

村上鬼城と俳画

石狩俳壇と井上伝蔵

島と俳句のエクリチュール

2005年 9 月号 第50巻9号

學燈社

小さな屠蘇の杯一つつゝ

鬼城并題



鬼城并題 画・蕉門六哲像  
『俳人の書画美術』集英社より

品の良さと鑑賞力の深さということでは、昭和五十四年に集英社から刊行された富安風生・加倉井秋を・清崎敏郎執筆の『俳人の書画美術 10 虚子』の「高浜虚子と五人の作家」および作品解説に教えられることが多かった。鬼城の描く芭蕉六哲像や芭蕉像も味のある作品である。

この五月二十七日、米国・ニューヨーク州ロチェスター市にある国立聾工科大学の学生五人と職員五人が、鬼城研究のために来館した。英語の手話を使った鬼城の境涯を演じるボディークミュニケーションのレベルも高く、日本の絵筆を使った実地指導の際には、皆鬼城の描いた金魚の絵を上手に模写していた。七月二日には、その時の様子を取材した英文学者で鬼城研究家の鶴田恭子氏が、愛知万博でビデオで報告した。

——俳人・鬼城草庵主人——